

『日本救急医学会雑誌』は日本救急医学会の機関誌であり、救急医学の専門性を追求し、その進歩、発展に寄与することを目的とするものである。

雑誌の構成は、総説、editorial、依頼論文、原著論文、症例報告、correspondence（研究速報、letter to the editor）、学会通信、投稿規定、広告等からなる。このうち、総説、原著論文、症例報告、correspondenceが投稿の対象となる。

1. 投稿内容

投稿論文は上記の趣旨をふまえた独創的なもので、他誌に未発表のものに限る。

2. 投稿者資格

著者または共同著者のうち1名は本学会会員であること。但し、編集委員会が認めた場合は非会員の投稿も受け付ける。ここでいう著者または共同著者は、①構想およびデザイン、データ取得、データ分析および解釈において相応の貢献がある、②論文作成または重要な知的内容に関わる批判的校閲に関与した、③出版原稿の最終承認を行った、に基づいて決定されるべきものであり、著者は①～③のすべてを満たさなくてはならない。

3. 論文の構成

- 1) 総説、原著論文、症例報告は、①タイトルページ、②和文抄録、③英文抄録、④本文、⑤文献、⑥図表のlegends、⑦図、⑧表。
- 2) correspondence（研究速報、letter to the editor）は、①タイトルページ、②本文（研究速報は図表可）とする。

4. 論文の長さ

- 1) 総説／原著論文は、『和文抄録800字以内、英文抄録（400 words以内）、本文、文献、図表legends、図、表』からなりA4判800字詰め用紙で23枚以内。図・表・写真は1点につき、各々用紙1枚に相当する。
- 2) 症例報告は、『和文抄録800字以内、英文抄録（200 words以内）、本文、文献、図表legends、図、表』からなりA4判800字詰め用紙で13枚以内。図・表・写真は1点につき、各々用紙1枚に相当する。
- 3) 研究速報は『本文、文献、図表legends、図、表』からなりA4判800字詰め用紙で6枚以内。その枚数内で図表を認める。
- 4) letter to the editorは800字詰め用紙、原則3枚以内。

5. 原稿の書き方

- 1) 投稿原稿はA4判、800字詰め（25字×32行）。英文はdouble spaceで印字。
- 2) タイトルページはホームページからダウンロードする。
- 3) 用語は現代かな遣い、医学用語以外は常用漢字とする。
- 4) 度量衡等は下記の例に従う。
例：cm, sec, hr, mg/dl, mEq/l, mmHg, µg/kg/min
- 5) 外国の人名、地名は原語を用いる。
- 6) 薬品名の記載は和英のどちらかで一般名（generic name）を用いる。
- 7) 特殊な試薬、機器などは必要に応じ、種類、会社名と外国の場合はその所在地（国名）を括弧内に記載する。
例：エンドトキシン（*E. coli* 055-B5; Difco, USA）

- 8) 論文中で繰り返される語は略語を用いてもよいが、正式略語または慣習的に使用されているものを原則とし、初回の完全用語に（ ）で以下略語を用いることを明記する。例：multiple organ failure（以下MOF）
- 9) 図・表・写真は、タイトル/内容/説明（legends）を含め全て英語で記載する。タイトルとlegendsは、図表とは別にA4用紙にまとめて記載する。図中にはタイトル、legendsを記載しないこと。但し表はタイトルおよびlegends共に記載可とする。
- 10) 英文抄録、図/表/写真のタイトルやlegendsは医学論文に精通したnative speakerのチェックを受け、証明書（書式自由）を添付すること。査読後、改定状況により再度校正証明書を要請する場合がある。
- 11) 文献の記載
 - (1) 文献は本文中に肩付けした引用番号順に配列する。
 - (2) 文献数は必要、不可欠なもののみとし、原則として総説50編以内、原著論文30編以内、症例報告20編以内、研究速報10編以内とする。
 - (3) 著者名は筆頭著者から3名までは列記し、それ以上は、他またはet alとする。
 - (4) 誌名略記は、『医学中央雑誌』収載誌目録略名表およびIndex Medicusに準ずる。
 - (5) 電子媒体（インターネット）によるものも認めるが、引用内容の科学性や倫理性を加味して変更を求める場合がある。
○著者：題名・Webアドレス アクセス日、年。
例 1) Marion DW, Dommeier R, Dunham CN, et al: Practice management guidelines for identifying cervical spine injuries following trauma. Available online at: <http://www.east.org> Accessed July 1, 2000
また、公的機関からの正式発表（法律、規則など）も記載可とする。
 - (6) 学会・研究会等の抄録は文献として認めない。
 - (7) 文献記載例
○雑誌：引用番号）著者名：題名・雑誌名・発刊西暦年；巻：頁-頁。
例 1) 丸藤哲, 澤村淳, 早川峰司, 他: 救急集中治療における血小板・凝固線溶系モニタリングの実際. 日救急医学会誌. 2009; 20: 1-15.
例 2) von Schreeb J, Riddez L, Samnegard H, et al: Foreign field hospitals in the recent sudden-onset disasters in Iran, Haiti, Indonesia, and Pakistan. Prehosp Disaster Med. 2008; 23: 144-51.
○単行本：引用番号）著者名：分担項目題名・編者名・書名・(巻)・(版)・発行所、発行地、西暦年、p頁-頁。
例 1) 鶴飼卓: 国際医療貢献の現場－医師たちの活躍. 大塚吉兵衛編. 国際貢献. ヒョーロン・パブリッシャーズ, 東京, 2008, p167-78.
例 2) Spiess BD: Monitoring metabolic indices and coagulation/hemostasis. In: Blitt CD and Hines RL, eds. Monitoring in anesthesia and critical care medicine 3rd ed. Churchill Livingstone, 1990, p581-603.
- 12) 著者の数：7名以内。但し研究速報や多施設共同研究はその限りではない。

- 13) 統計処理は正しく行うこと。
- 14) キーワードは適切な言葉を3～5個選択する。但しタイトル中の文言を用いてはならない。
- 15) タイトルページを除き、論文全体（図表を含む）に通しページ番号をふること。
- 16) 英文による投稿でも、必ず和文抄録を添えること。字数は各カテゴリーにならう。

6. 倫理規定

ヒトを対象とした研究に当たっては、Helsinki 人権宣言に基づくこと。その際、インフォームドコンセント、所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会ないしそれに準ずる機関の承認を得ていることが望ましい。個人情報保護に基づき、匿名化すること。なお、十分な匿名化が困難な場合には、同意を文書で得ておくこと。

動物を対象とした研究に当たっては、医学生物学的研究に関する国際指針の勧告の趣旨にそったものとし、所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会ないしそれに準ずる機関の承認を得ていること。

7. 利益相反

『臨床研究に関する利益相反管理指針』および『同 施行細則』に基づき、臨床研究（医薬品、医薬部外品、健康食品、医療機器等）に関する論文は、利益相反状態を自己申告しなければならない。

- 1) 全ての著者は、投稿時に、『臨床研究に関する利益相

反管理指針施行細則』に定める「投稿時利益相反申告書」（ホームページからダウンロード）により、利益相反状態を自己申告すること。

- 2) 利益相反関係（例：研究費・特許取得を含む企業との財政的関係、当該株式の保有等）の有無を本文末尾に明記すること。利益相反関係がある場合には、関係する企業・団体名を明記すること。

注) 利益相反に関する記載例

- ・本研究は〇〇〇〇の資金提供を受けた。
- ・〇〇〇〇の検討にあたっては、〇〇〇〇から測定装置の提供を受けた。
- ・利益相反はない。

8. 投稿方法

- 1) E-mailに原稿データを添付して送信する。添付するデータはMicrosoft Word/Excel/PowerPoint等、編集可能な形式とする。PDFファイルが望ましいのは、①英文校正証明書（書式自由）、②発表抄録の写し、③投稿時利益相反申告書など。

- 2) 送信先：editorial-jaam@umin.net

送付先：〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-12
ケイズビルディング3F
日本救急医学会 編集委員会
Tel. 03-3813-9914（直通）

執筆、投稿の指針と注意事項

1. 投稿規定から外れている論文は受理されません。
2. 投稿論文は受付（送付された論文を受け取ったこと）、受理（投稿論文の必要項目が満足されて査読にまわすこと）、評価（編集委員を含む複数名による査読制）、採用（審査をパスし、掲載できる形となったこと）を経て掲載されます。
3. 採用となった論文は投稿の種類別に掲載順が決定されます。論文の掲載順はそれぞれ採用決定期日順、その期日が同じときは受理日順とします。
4. 投稿論文は返却しません。予めコピーをとっておいて下さい。本誌に掲載された著作物の著作権は著者と日本救急医学会が重ねて保持するものとします。なお、著作権のうち複写による利用の権利は日本救急医学会のみが保持し、これを学術著作権協会に委託してあります。著作権に関する詳細は編集委員会に問い合わせして下さい。
5. 投稿者は本誌への投稿論文をその論文審査期間中に他の学会誌等に投稿することはできません。
6. 二重投稿、盗用など重大な過ちが判明したときは編集委員会および理事会の議を経て処分が決定されます。但し、下記事項を満たすものは、編集委員長の審査を経て二次出版が容認され、査読の対象となります。
 - ①一次出版の編集者から二次出版の許可を得た文書、一

次論文のコピー、別冊または原稿を提出すること。

- ②一次出版の優先権を尊重するため、二次出版までには少なくとも1週間をおくこと（双方の編集者による別途取り決めがある場合はこの限りではない）。
 - ③二次出版の論文が異なる読者層を対象としていること。
 - ④二次出版の内容は、一次出版のデータおよび解釈を忠実に反映していること。
 - ⑤二次出版のタイトルページに掲載される脚注において、その論文全体あるいは一部は過去に掲載されたことがあるという旨を読者、査読者、著作権管理機関に対して告知し、初出文献を示すこと。（脚注例：「本論文は〔雑誌名および詳細な書誌事項〕にて最初に報告された研究に基づくものである」）
7. 原稿の掲載に際し、次のような費用が必要です。
- 1) 著者校正時、掲載料（1万円）をお振込み頂きます。但し、letter to the editorは不要です。
 - 2) 刷り上がり10頁を超えるものは、超過1頁につき2万円を著者負担とします。
 - 3) 原稿の枚数にかかわらず、カラー写真など特別の技術を要するものは実費負担とします。
 - 4) 別刷は実費負担とします。